



2023年3月期 第2四半期 決算説明

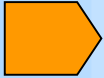
証券コード：6908

2022年11月4日

イリソ電子工業株式会社

IRISO ELECTRONICS CO.,LTD.



-  **I. 2023年3月期第2四半期 連結決算概要**
- II. 2023年3月期 連結決算見通し**
- III. トピックス**

1. 2022年度2Q累計 業績のポイント

- **売上高** : 1Qの上海ロックダウンからの挽回、パワートレイン分野の好調維持、円安効果により、対前年同期比+16.2%、期初計画比+15億円、過去最高売上更新
- **営業利益** : 原材料高騰、1Q上海ロックダウン影響を、売上拡大、輸送費の改善、収益構造改善の取組みにより、対前年同期比+21.3%、期初計画比+6億円

単位：百万円

	2021年度 2Q累計	2022年度 2Q累計	前年比
売上高	21,978	25,543	+3,565 +16.2%
営業利益	2,526	3,063	+537 +21.3%
営業利益率	11.5%	12.0%	+0.5pts

2. 2022年度2Q累計 連結決算の概要



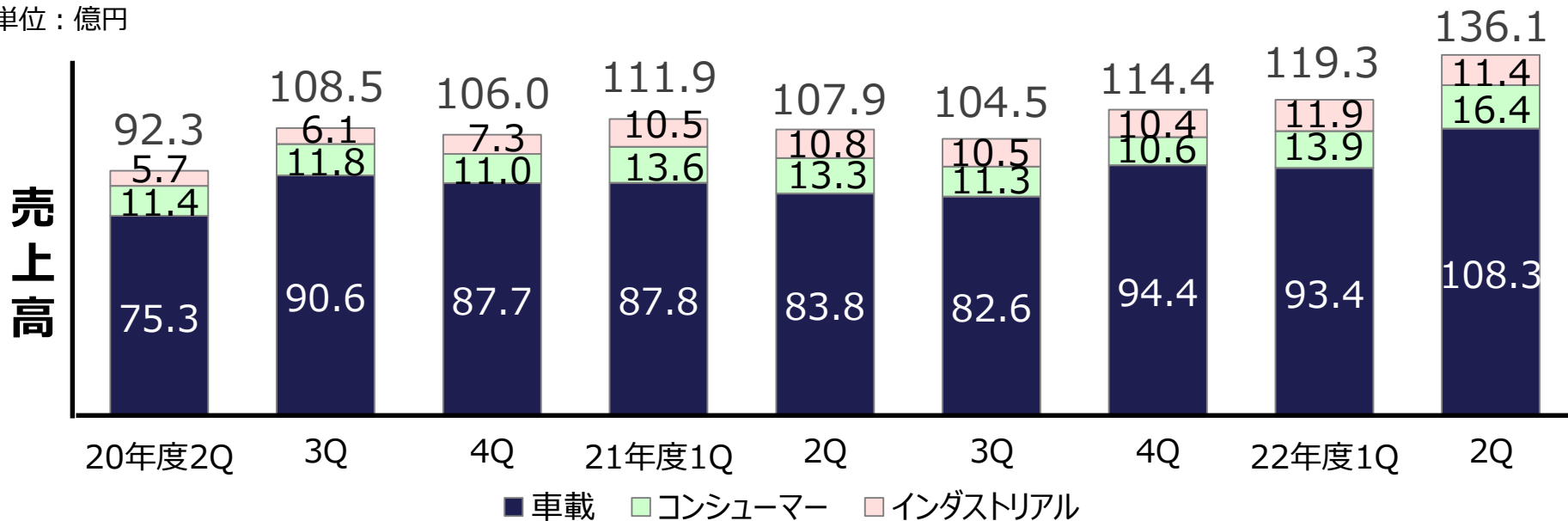
単位：百万円

	21年度 2Q累計	22年度 2Q累計	増減額	増減率	計画比
売上高	21,978	25,543	+3,565	+16.2%	+1,543
車載	17,155	20,165	+3,010	+17.5%	
コンシューマー	2,692	3,046	+353	+13.1%	
インダストリアル	2,130	2,331	+201	+9.5%	
売上原価	14,344	17,172	+2,827	+19.7%	
売上原価率	65.3%	67.2%		+2.0pts	
販売管理費	5,107	5,307	+200	+3.9%	
販売管理費率	23.2%	20.8%		△2.5pts	
営業利益	2,526	3,063	+537	+21.3%	+583
営業利益率	11.5%	12.0%		+0.5pts	
税引前利益	2,365	3,639	+1,274	+53.9%	+1,239
四半期純利益	2,168	2,901	+732	+33.8%	+1,101
EPS	92.03円	123.33円			+46.81円
設備投資	3,018	3,747	+729	+24.2%	
減価償却	2,518	3,086	+567	+22.5%	
為替レート	ドル：110.18円	133.46円	+23.27円	+21.1%	+3.46円
	ユーロ：130.97円	138.79円	+7.83円	+6.0%	+3.79円
期中平均	元：17.04円	19.82円	+2.78円	+16.3%	△0.18円

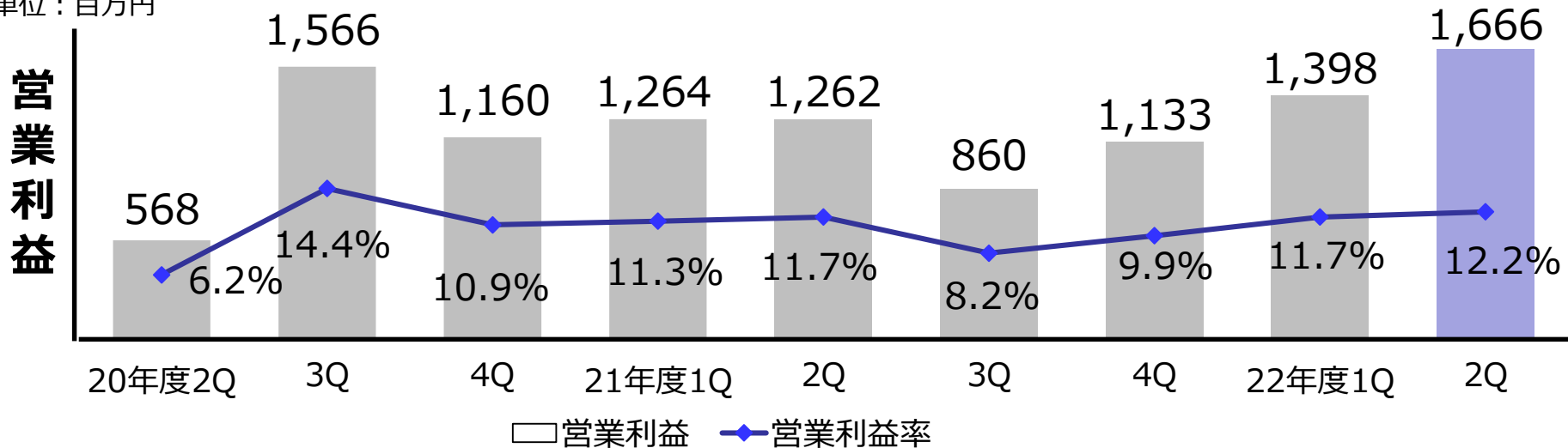
3. 四半期別売上高・営業利益推移



単位：億円



単位：百万円



4. 地域別・製品別売上高

■ 地域別

単位：百万円

	21年度 2Q累計		22年度 2Q累計		
	売上高	構成比	売上高	構成比	前年比
日本	5,453	24.8%	5,063	19.8%	△389
中華・韓国圏	7,309	33.3%	10,123	39.6%	+2,814
アメリカ	2,780	12.7%	3,240	12.7%	+459
欧州	3,571	16.2%	4,033	15.8%	+461
ASEAN	2,863	13.0%	3,082	12.0%	+218
合計	21,978	100.0%	25,543	100.0%	+3,565
海外比率		75.2%		80.2%	

日本

- ・完成車メーカーの生産調整により減少

中華・韓国圏

- ・ロックダウンからの挽回とパワートレイン分野の継続拡大

■ 製品別

単位：百万円

	21年度 2Q累計		22年度 2Q累計		
	売上高	構成比	売上高	構成比	前年比
BtoB	9,658	43.9%	10,536	41.2%	+874
FPC	4,816	21.9%	5,798	22.7%	+978
車載IF	5,492	25.0%	7,157	28.0%	+1,658
ピンヘッダー	891	4.1%	994	3.9%	+102
その他	1,119	5.1%	1,070	4.2%	△49
合計	21,978	100.0%	25,543	100.0%	+3,565

BtoB

- ・“Z-Move[®]”堅調
- ・高速伝送対応の新製品納入開始

車載IF

- ・パワートレイン分野が牽引

5. 対前年比 売上・営業利益変動

単位：百万円

	売上高	営業利益	営業利益率	要因
21年度2Q累計 実績	21,978	2,526	11.5%	
為替影響	+2,720	△37		USD: 110.18円→133.46円、121% EUR: 130.97円→138.79円、106% CNY: 17.04円→19.82円、116%
物量増減	+1,385	+690		
材料費増減		△480		1Q△290、2Q△190
固定費増減		△250		償却費増
上海ロックダウン影響	△540	△180		売上減、関係経費
原価低減他		+794		原価低減、価格適正化他
変動要因 計	+3,565	+537		
22年度2Q累計 実績	25,543	3,063	12.0%	

6. 連結貸借対照表の状況

単位：百万円

	21年度	22年度 2Q	前年末比
流動資産	40,436	46,476	+6,040
現金及び預金	14,066	17,408	+3,341
売掛債権	12,889	14,311	+1,422
棚卸資産	11,592	13,018	+1,425
固定資産	32,716	35,624	+2,907
資産合計	73,153	82,100	+8,947
負債合計	11,376	14,045	+2,668
買掛債務	4,504	4,999	+494
借入金	410	2,318	+1,908
純資産合計	61,776	68,055	+6,278
株主資本計	54,660	56,147	+1,487
自己資本比率	83.8%	82.3%	-1.5pts

7. 連結キャッシュフローの状況

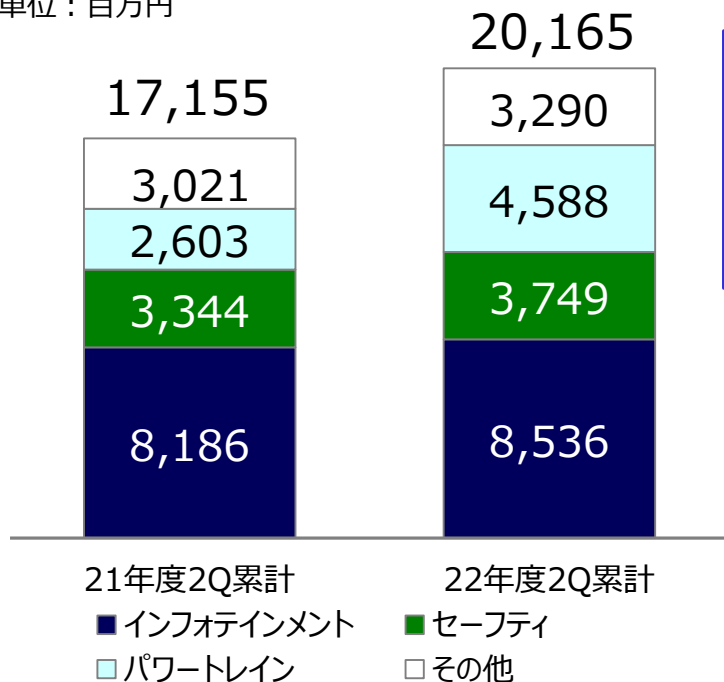
単位：百万円

	21年度 2Q累計	22年度 2Q累計	増減
営業キャッシュフローマージン率	15.3%	21.3%	+6.0pts
営業キャッシュフロー	3,363	5,444	+2,081
当期純利益	2,365	3,639	+1,274
減価償却費	2,518	3,086	+567
運転資金増減(△は増加)	△1,698	△854	+844
投資キャッシュフロー	△3,035	△3,864	△829
有形固定資産	△2,717	△3,257	△540
フリーキャッシュフロー	327	1,579	+1,252
財務キャッシュフロー	△1,576	361	+1,937
配当金	△1,183	△1,420	△236
現金及び現金同等物期末残	13,059	17,408	+4,348

8. 市場別売上 オートモーティブ(車載)

■ 前年比+3,010百万円 (+17.5%)

単位：百万円



・1Qの上海ロックダウン影響:約-5億円
 ・グローバルでの完成車生産台数は半導体不足等で未だ正常化には至らずも、中国を中心にxEVの生産は好調に推移

インフォテインメント

・高速伝送対応可動BtoBコネクタ「10143シリーズ」の納入開始

セーフティ

・半導体不足等による影響を受けるも、セーフティ機能の搭載率が高い車種が生産される傾向にあり、増加

パワートレイン

・xEVの増加を背景に、上期は前年同期比+76%と好調を維持
 ・特にバッテリー関連向けが牽引
 ・四半期での最高売上を9Q連続更新中

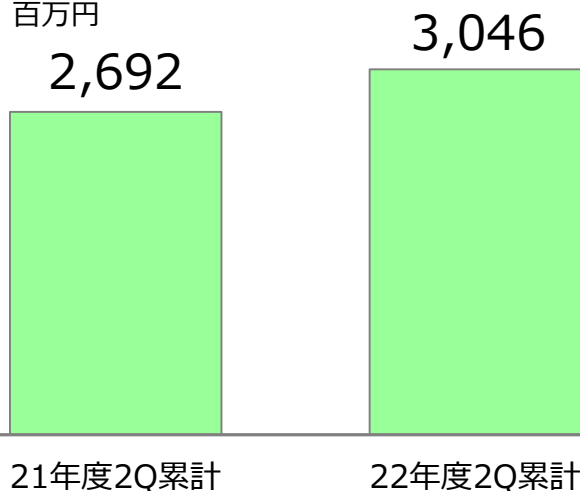
	21年度				22年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
インフォテインメント	4,221	3,965	3,731	4,097	3,971	4,565
セーフティ	1,754	1,590	1,690	1,954	1,803	1,946
パワートレイン	1,260	1,343	1,516	1,727	2,092	2,496
その他	1,542	1,478	1,322	1,560	1,470	1,820
合計	8,778	8,376	8,261	9,339	9,337	10,828

9. 市場別売上 コンシューマー、インダストリアル



■コンシューマー市場：前年比+353百万円 (+13.1%)

単位：百万円

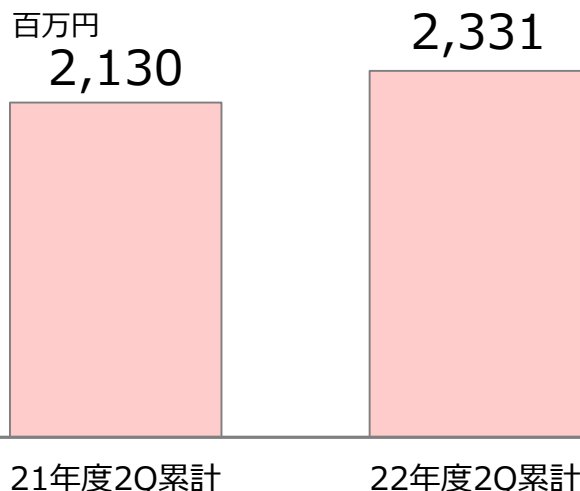


・ゲーム機向けが好調に推移

	21年度				22年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
コンシューマー	1,361	1,331	1,131	1,060	1,398	1,647

■インダストリアル市場：前年比+201百万円 (+9.5%)

単位：百万円




・中国の設備投資需要によるPLC等のFA機器向け、5G基地局向けの増加

	21年度				22年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
インダストリアル	1,047	1,083	1,053	1,039	1,193	1,138



I. 2023年3月期第1四半期 連結決算概要

 **II. 2023年3月期 連結決算見通し**

III. トピックス

1. 2022年度 業績予想

■ 車載売上増、並びに為替環境より上方修正→売上高、純利益にて過去最高目指す

単位：百万円

	21年度	22年度			前年比	期初計画比	
	通期	通期 期初計画	上期実績	下期 修正計画	通期 修正計画	対通期	対通期
売上高	43,863	51,500	25,543	28,456	54,000	+10,136 +23.1%	+2,500 +4.9%
営業利益	4,520	6,160	3,063	3,686	6,750	+2,229 +49.3%	+590 +9.6%
営業利益率	10.3%	12.0%	12.0%	13.0%	12.5%	+2.1pts	+0.5pts
税引前利益	4,570	6,000	3,639	3,260	6,900	+2,329	+900
当期純利益	3,913	4,500	2,901	2,598	5,500	+1,586	+1,000
EPS	166.22円	191.30円	123.33円	110.48円	233.81円	+67.59円	+42.51円
為替レート 期中平均	112.86円 131.01円 17.59円	130.00円 135.00円 20.00円	133.46円 138.79円 19.82円	145.00円 145.00円 20.00円	138.78円 141.66円 19.90円	+25.92円 +10.65円 +2.31円	+8.78円 +6.66円 △0.10円
設備投資	6,172	9,000	3,747	6,252	10,000	+3,827	+1,000
減価償却	5,356	6,300	3,086	3,913	7,000	+1,643	+700

2. 2022年度 市場別売上高計画

■ 期初計画から上方修正

単位：百万円

	21年度		22年度				2Q累計 進捗率
	売上高	構成比	期初計画	修正計画	構成比	前年比	
車載計	34,756	79.2%	41,600	43,700	80.9%	+25.7%	46.1%
インフォテインメント	16,015	36.5%	17,700	18,400	34.1%	+14.9%	46.4%
セーフティ	6,989	15.9%	8,100	8,300	15.4%	+18.8%	45.2%
パワートレイン	5,847	13.3%	9,300	10,000	18.5%	+71.0%	45.9%
その他	5,904	13.5%	6,500	7,000	13.0%	+18.6%	47.0%
コンシューマー	4,884	11.1%	5,600	5,800	10.7%	+18.7%	52.5%
インダストリアル	4,223	9.6%	4,300	4,500	8.3%	+6.6%	51.8%
合計	43,863	100.0%	51,500	54,000	100.0%	+23.1%	47.3%



I. 2023年3月期第1四半期 連結決算概要

II. 2023年3月期 連結決算見通し

 **III. トピックス**

■ 生産能力向上の取り組み

場所	目的	取り組み
中国・ 上海、南通	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消化の推進 ・電動化、自動運転化による需要拡大への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・製品生産ラインの増強
日本・秋田		<ul style="list-style-type: none"> ・11月に土地取得予定 ・日本における2つ目の工場として2025年稼働開始予定
日本・茨城	<ul style="list-style-type: none"> ・今後需要が見込まれる大型コネクタの樹脂成形の内製化 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月に新棟を増築 ・250tタイプの大型成形機を導入
日本・花巻	<ul style="list-style-type: none"> ・金型製造の内製化 ・コスト競争力向上 ・金型製作リードタイム短縮 	<ul style="list-style-type: none"> ・成形金型の製造拠点拡充のため、新工場建設予定



秋田工場 完成予想図



茨城工場 新棟

会社名	イリソ電子工業株式会社
事業内容	各種コネクタの製造・販売
設立年月	1966年12月
社員数	3,137名(2022年3月31日現在)
資本金	5,640百万円(2022年3月31日現在)
本社	神奈川県横浜市港北区新横浜2-13-8
営業拠点	
国内	本社、福島県、茨城県、愛知県、大阪府
海外	シンガポール、香港、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国 中国(上海、大連、天津、蘇州、深圳、重慶)、マレーシア、台湾、 インド
研究開発	本社(イリソテクノロジーパーク)、 川崎(生産技術センター)、岩手県、上海R&Dセンター
工場	茨城県、中国(上海、南通)、フィリピン(マニラ)、 ベトナム(ハイズオン)

コネクタの種類

基板対基板コネクタ (BtoBコネクタ)

プリント基板の接続用に開発されたコネクタの総称でボード・ツー・ボードコネクタ(ボードtoボードコネクタ)とも呼ばれる。垂直接続、平行(スタッキング)接続、水平接続など組み合わせで、さまざまな接続が可能となる。B to B (ビー・ツー・ビー)は、当社の登録商標として市場で広く浸透している。

FPC/FFCコネクタ

FPC基板(Flexible printed circuits)やFFCケーブル(Flexible flat cable)の接続用に開発されたコネクタの総称。コネクタの挿入時に力を加えずにロック可能なZIF(Zero insertion Force)タイプ、挿入したときに力が発生するNON-ZIFタイプがある。

IFコネクタ

IFとは、インターフェイスの略で、機器間の信号の接続を行うコネクタのことで、I/O(インプット/アウトプット)コネクタとも呼ばれる。カーナビ、PCなどさまざまな機器の側面(裏・表面)に装着され、機器への電源供給、音声・映像信号データなどの入出力を行う。

ピンヘッダー

線材をカット加工した“ピン(電導体)”をハウジング(樹脂材でできた絶縁体)で支えたプラグ(オス側)コネクタの基本形であり、さまざまな分野・機器の内部接続(基板間接続)に使用されている。横から見ると、生け花の花止め“けんざん”のように見えるのが特長。メス側はソケットと呼ばれる。

この資料に記載されております業績の予想数値につきましては、本資料の発表日現在で得られた入手可能な資料に基づいて作成したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の見通しのみに依拠してご判断されることはお控え下さるようお願いいたします。

なお、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。